Creative Enzymes®

エリザベスキンギア・メニンゴセプティカ由来のN-グリカナーゼ（EDTAフリー）、組換え

Cat. No. NATE-0483

Lot. No. (See product label)

はじめに

別名	N-グリカナーゼ

製品情報

種	エリザベスキンギア・メニンゴセプティカ
由来	E. coli
形態	20 mM Tris-HCl、50 mM NaCl（pH 7.5）の無菌フィルター処理された溶液。
分子量	~35 kDa daltons
純度	エクソグリコシダーゼの汚染物質が存在しないことは、□□するpNPまたはMU-グリコシドとの長時間のインキュベーションによって確認されました。Twiningによって□明された方法に従い、酵素を0.2 mgのレゾルフィン標識カゼインと37°Cで約18時間インキュベートした後、プロテアーゼ活性は□出されませんでした。
活性	> 10 U/mg
最適pH	最適: pH 8.6 範□: pH 7.5-9.5
特異性	N-グリカナーゼ（EDTAフリー）は、糖タンパク質および糖ペプチドから完全なN-結合オリゴ糖を放出します。糖タンパク質基質の事前□性は、熱/SDS処理によってN-グリカンの除去速度と信頼性を大幅に向上させますが、高濃度では、酵素は□性していない糖タンパク質から完全なグリカンを除去することができます。酵素の切断部位は非常に特異的であり、ほとんどのオリゴマンノース、ハイブリッド型および複合型N-グリカンのアスパラギンと近接するN-アセチルグルコサミンの間で加水分解が起こります。酵素は1-アミノオリゴ糖を放出し、これは非酵素的に加水分解されてアンモニアと完全なキトビオース還元末端を持つ自由オリゴ糖を形成します。ペプチドバックボーンは重要な構造的決定因子であり、グリカンの切断は、置換されていないα-アミノおよびカルボキシル基を持つアスパラギンからは起こりません。二-N-アセチルキトビオースは最小のグリカン構造決定因子ですが、植物糖タンパク質に一般的に見られるコアα(1-3)-結合フコースがある場合、切断は起こりません。オリゴ糖に付随するリン酸、硫酸およびシアル酸基は切断に影響を与えません。加水分解の結果、ペプチド上のアスパラギンはアスパラギン酸に□換されますが、ポリペプチドはそれ以外は完全なままです。エンドグリコシダーゼ（エンドFやエンドHなど）は、より制限された特異性を持ち、キトビオースコア内で切断し、ポリペプチドに1つのN-アセチルグルコサミンを残すため、完全なオリゴ糖を放出しません。

保管・発送情報

保存方法	氷パックで発送し、翌日配達します。酵素は2-8°Cまたは-20°Cで保管してくださいが、繰り返しの凍結と解凍は避けてください。
安定性	延長インキュベーションは、N-グリカナーゼの安定性を促進するために、37°Cではなく25°Cで行うことができます。